

木曾地区協議会

第3回 定期総会

於：町田市教育センター

平成27年2月に設立された木曾地区協議会の組織は、地区の各区域内で活動する各種団体の集合体です。第3回定期総会が、平成29年6月9日に開催され、平成29年度の活動内容が下枠内のように決定されました。これは「防災」に特化した事業計画継続の検証も含めての活動内容となりました。



1. 地域活性化事業（40万円）
地域活動の充実を図り、さらなる活性化に協力していく
2. 地域交流事業（40万円）
地域活動の共有化を図り、世代間交流活動を行う
3. 広報広聴事業（20万円）
活動周知のため、広報誌を発行し地区内各種団体及び構成員に配布

今回の広報誌は、上記の決定を受けて、どのように活動したかを中心に報告させていただきます。

避難所HUG研修会

平成29年7月19日 於：町田市教育センター

昨年度から貸し出しを準備した『避難所HUG』の研修会を行いました。この避難所開設のシミュレーションゲームは、静岡県危機管理部が開発したもので、避難場所（体育館&グラウンド&教室）に避難者をどのように誘導配置するかを、グループに分かれて相談しながら進めていくものです。当日は、町田消防署鶴川出張所の元所長の久保 堃誠一氏（写真丸枠）に使い方指導をお願いし、木曾地区協議会の所属団体への周知も兼ねて、ゲームを実際に体験する形で開催しました。約30名が参加し、真剣な中にも和やかな雰囲気で行われ、研修会は大変有意義なものになりました。

本日のゲームの条件

住民組織（忠三小）

- 木曾森野自治会
- 木曾森野若草会
- 滝の沢自治会
- 木曾町中塚自治会
- 木曾団地自治会
- 埴川自治会
- 木曾三家自治会
- 西木曾自治会
- 木曾上横町内会
- 木曾中央町内会
- 木曾町下横町内会
- 埴川団地自治会
- 木曾市営住宅管理組合
- 木曾緩和会

避難所のイメージ

さまざまな事情を抱えた避難者が集まってくる

どこにどのように入ってもらうか

グループに分かれて行います

<避難所HUGの貸し出しについて>

地区協議会では必要な物品をそろえて、町内会・自治会等々の各団体の代表者に貸し出します。個人にはお貸しできませんので、代表者に問合せしてみてください。上記研修会当日に代表者が出席できなかった団体には、地区協議会から説明者を派遣することも考えております。楽しみながら防災意識を高める『避難所HUG』を借りて体験してみたいかがでしょうか。希望団体を募っています。

事業部会報告

年間7回開催 於：町田市教育センター

今年度も役員会で事業部会を立ち上げることを決定し、そこで意見を集約する形で、各事業計画を推進しました。

- 第1回 本年度事業計画について基本方針を決定 (8/21)
- 第2回 地域活性化事業の内容について決定 (9/25)
- 第3回 木曾の歴史スタンプラリーの実施に必要物品について決定 (10/26)
- 第4回 スタンプラリー当日の具体的動きについて再検討 (11/9)
- 第5回 地域交流事業の内容について基本方針を固め決定 (12/6)
- 第6回 避難所開設訓練への協力具体案及び広報誌について決定 (2/21)
- 第7回 来年度の活動方針と定期総会について検討 (4/11)



自慢大会

平成30年1月24日 於：町田市民フォーラムホール

各地区協議会の活動報告会



木曾地区協議会として、本年度の12月までに行った事業、『避難所HUG』の研修会の様子とゲーム内容説明、そして雨に崇られましたが、『木曾の歴史スタンプラリー』の趣旨と効果についてを報告しました。

ここで、報告された他地区の活動を列挙すると、『高齢者の見守り事業』『子どもの見守り事業』『ふれあいまつり』『防犯パトロール』『地域マップ作り』『地域子ども育成塾』『ホームページ作成』『ふれあいウォーキング』『音楽祭』『囲碁将棋ネットワーク』『ファミリースポーツ普及』『おしゃべりクッキング』『小さい人形劇』『大学との連携事業』等々と多彩で、『避難所開設訓練』『広報誌発行』は本協議会だけでなく他地区でも活動報告がありました。

地区別懇談会

平成30年2月6日 於：町田市教育センター

テーマ：安心して暮らせる街作り

町田市と町田市社会福祉協議会の協働により、地域住民や活動団体等が顔を合わせ、地域の福祉課題等を認識し、今後の活動のきっかけとなるよう市内各地で「地区別懇談会」が開催されています。木曾地区では「安心して暮らせるまちづくり」をテーマとし、木曾地区協議会も協力参加させていただき、活発な意見交換や情報共有がなされました。参加者からの声として、「気軽に参加できる多世代交流の場をつくりたい」「企業や空き家のスペースを活用したい」「高齢者の見守りやちょっとした困りごとを手伝ってあげるための仕組みが必要」「男性を地域活動に巻き込む仕掛け」等のアイデアが上がっていました。



グループワークと発表

木曾の歴史スタンプラリー

平成29年11月23日 於：各神社仏閣

木曾地区には、地域信仰の源であるお地蔵様や、地域の氏神様である箭幹八幡宮をはじめ八坂神社、木曾観音堂など由緒ある神社仏閣、また江戸幕府が交通網整備のため日本橋を起点として定めた一里塚等、地域発展の歴史に欠かせない多くの史跡があります。

今回、多くの地区の皆さんにこのことを知って頂こうと「木曾の歴史スタンプラリー」を計画しました。しかし、残念ながら開催当日は事前の準備もおなしく雨天で実施内容を縮小して行いました。なお、本企画は次年度に改めて実施する予定です。



スタンプラリー用紙



スタンプラリーポスター



雨天でも熱心な参加者がありました

避難施設開設訓練

平成30年3月9日 於：忠生第三小学校

今年の訓練は昨年同様『受付業務』に主眼を置いて3月9日(金)に実施しました。

小雨模様の中第三小学校の5年生90名を含む総勢160名の参加でした。

模擬避難者は受付終了後、体育館での間仕切りの状況や簡易トイレなど避難所の実態を体験するとともに各種防災グッズの見学を行いました。



受付後の整列



地域住民受付訓練



防災グッズ体験



小学生受付訓練



簡易トイレ展示

当日のアンケート調査で、来年度に向けてのご意見・ご要望の中に、「避難所で守るべきルールを明記しては?」「専門家を呼んで話を聞きたい」との貴重なご要望があり、避難施設開設委員会で検討を進めたいと思います。また、「地域の参加者を増やすために、休日開催をする」との声もありましたが、第三小学校は全学年の避難訓練も同時開催しておりその中で5年生が受付業務に参加しています。従って現状では休日開催は困難と判断しています。



「避難所開設訓練アンケート結果」

H30.3.9
実施

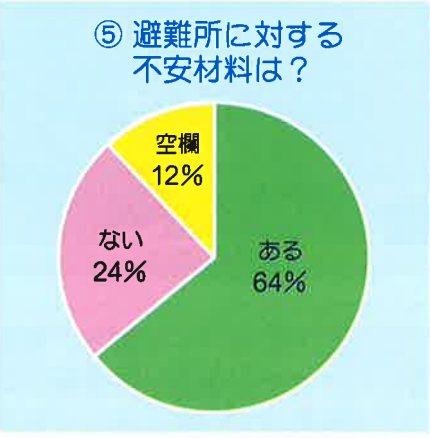
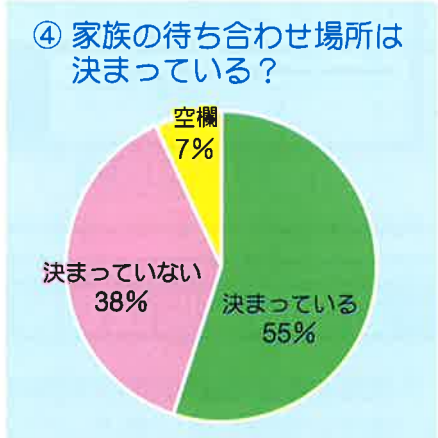
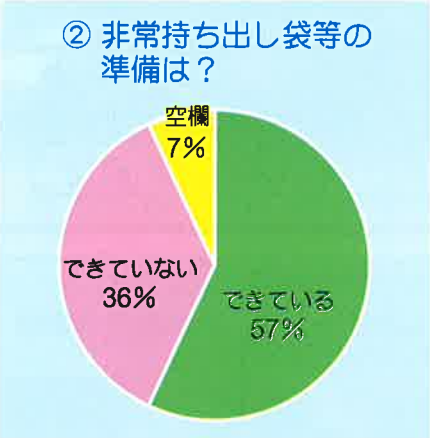


当日参加された、地域住民の方42名全員にアンケートに協力していただきました。

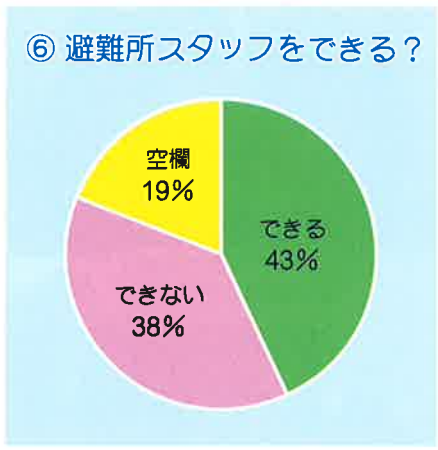
設問①⑤の記述部分は、事前に殆どの人に訓練の意図(受付方法)が伝わっていたことを感じさせました。

- ・受付とカード提出場所が違う場所だという事が不明確だった・実際にどうなるのか考える切っ掛けになった
- ・色々な防災用品があつて勉強になった(簡易トイレ等)・家庭での防災用品を準備したい・別な訓練も必要
- ・ペットの扱いが不安・収容人数が少ない・避難所での指示出しは誰が担当か・食料や物品は足りるのか
- ・プライバシーが守れるか・実際の展示を見るとイメージが湧いたので継続して欲しい

比較しての分析が行えるように、設問は昨年度と全く同じにしてアンケートを取りました。以下が分析結果です。



- ②家庭で避難袋を準備している割合が、昨年度70%から57%と大きく後退しているが、昨年参加されなかった方々の参加を得たということなのでプラス材料の数字と考えます。
- ③独力で避難所へ行けると答えられた方は、昨年より10%減少となっているが、ご高齢者や障害を持った方の訓練参加者が増えたということに起因しているようで、これもプラス材料の数字と判断しました。
- ④被災の際の、待ち合わせ場所を決めている方が、前年70%から15%減少となりました。独居者の訓練参加が増えたことに起因すると考えられるため、避難所開設訓練の効果という観点からは良い数字と考えます。



- ⑤避難所に対する認識が定着しつつあるのか、不安を持つ方が、前回より10%増加する結果となりました。安心してはられない様々な現実を知り、各団体でも対策を立てる気運が高まるものと思われまます。
- ⑥避難所スタッフをできると答えられた方の割合に変化はありませんでしたが、明確に「できない」と意思表示された方が10%増加しました。個人の立場と避難所運営の両立の難しさを認識された方が増えたと思われまます。
- ⑦のご意見・ご要望については前ページ記事内に記載がございます。

<あとかぎ>

木曽地区協議会は、その歴史が浅く、地域に根付いているとは言い難いが、この地区で活動する団体「木曽地区町内会・自治会連合会」「民生委員児童委員協議会」「青少年健全育成地区委員会」「小中高等学校」「消防団」「商工ネット」「社会福祉協議会」「高齢者支援センター」「木曽オールスターズ」を網羅する形で存在しています。これからも有効で地道な活動を続けていきたいと考えています。

問い合わせ先 E-mail : kisotiku@outlook.com